◆柔道整復師がすべき超音波観察装置の教育と未来展望

公益社団法人　日本柔道整復師会　学術教育部　部員、横浜医療専門学校　教務部長　小野　博道

【key words】柔道整復師、超音波観察装置、エコー、教育、研究

【Abstract】

柔道整復師の超音波観察装置（以下エコー）の使用を認める根拠とは、平成15年9月9日医政医発第909001号厚生労働省医政局医事課長通知の追認として「検査自体に人体に対する危険性はなく、かつ、柔道整復師が施術に関わる判断の参考とする超音波検査については、柔道整復の業務の中でおこなわれていることもあり、柔道整復師が施術において実施したとしても関係法令に反するものではないと解している」（平成22年12月15日に厚生労働省医政局医事課）である。この根拠をもとに現在まで20年以上臨床現場でエコーは活用され研究もされてきた。臨床にて自らの判断でエコーを使用することが出来るのは医師以外に柔道整復師にしかないことの意味合いは、とても大きいものである。さらに、平成30年度に改正された柔道整復師教育カリキュラムから「医用画像の理解」が追記され、教育の中にエコーが取り込まれるようになった。しかし、柔整の臨床現場でエコーが必ずしも普及しているとは言えず施術所のエコー普及率は10％程度である。エコーを柔整業界全体に普及させるためには、「教育」が大きなテーマと言えるであろう。学校教育の現状と、日本柔道整復師会で行われている「匠の技プロジェクト」の臨床教育を紹介しつつ臨床現場でのエコーの正しい活用方法を症例報告とともに、エコーの未来展望と今後進めていくべきエコー研究方法の提案をする。この先「柔整師にエコー在り」と国民に認識してもらえる未来を創るために我々柔道整復師が今すべきことをこの発表で考えて頂きたい。

1－P－2

大学サッカー部における慢性足関節不安定性（CAI）のポジション別の有病率について

平戸幹憲、小野博道（横浜医療専門学校）

key words：慢性足関節不安定性、International ankle consortium（IAC）、日本語版 Cumberland Ankle Instability Tool（CAIT-J）

【背景】慢性的な不安定感が残存し足関節捻挫を繰り返す状態を慢性足関節不安定症（Chronic Ankle Instability：以下、CAI）という。サッカーは競技特性により足関節捻挫の発生率が高い為、CAIの有病率も高いと予想される。CAIの有病率は、これまで複数の研究で報告されているが、サッカーのポジション別のCAIの有病率に関する先行研究は少ない。【目的】大学サッカー部におけるCAIのポジション別の有病率を得る事によって、怪我の予防と治療およびリハビリテーションに役に立てる。【方法】T大学男子サッカー部員134名を対象に、International ankle consortium（以下、IAC）の推奨基準を採用した質問紙を用いて調査を行った。IACのCAI推奨選択基準は、「1回以上の足関節捻挫の既往」と「足関節くずれの既往」と「推奨アンケートによる基準」である。推奨アンケートは、日本語版 Cumberland Ankle Instability Tool（以下、CAIT-J）を使用し、カットオフ値を25点とした。【結果】対象者134名中CAIを有する者は17名で、サッカー部全体のCAIの有病率は12.7％であった。ポジション別では、GKは11名中2名の18.2％、DFは43名中7名の14.6％、MFは63名中5名の7.9％、FWは16名中3名の18.8％であった。【考察】サッカー部全体のCAIの有病率は足関節捻挫の発生率が高いサッカーにおいては、比較的低い数値であった。DFのCAIの有病率に関しては、相手攻撃陣とコンタクトが多いポジション特性がCAIの有病率に反映されていなかった。CAIの有病率を調査する際には、IACの推奨基準の再検証や、過去の足関節捻挫に対するアスレティックリハビリーションを含めた詳細な治療歴と競技復帰基準を調査することを検討する必要がある。